

四半期報告書

(第65期第3四半期)

自 平成20年10月1日
至 平成20年12月31日

積水化成品工業株式会社

表 紙

第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
3 関係会社の状況	2
4 従業員の状況	2
第2 事業の状況	
1 生産、受注及び販売の状況	3
2 経営上の重要な契約等	3
3 財政状態及び経営成績の分析	4
第3 設備の状況	6
第4 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	7
(2) 新株予約権等の状況	7
(3) ライツプランの内容	7
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	7
(5) 大株主の状況	7
(6) 議決権の状況	8
2 株価の推移	8
3 役員の状況	8
第5 経理の状況	9
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	10
(2) 四半期連結損益計算書	12
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	14
2 その他	22
第二部 提出会社の保証会社等の情報	23

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年2月13日
【四半期会計期間】	第65期第3四半期（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）
【会社名】	積水化成品工業株式会社
【英訳名】	Sekisui Plastics Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小野 恵造
【本店の所在の場所】	大阪市北区西天満2丁目4番4号
【電話番号】	大阪06（6365）3022番
【事務連絡者氏名】	経理部長 藤原 敬彦
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿2丁目7番1号（新宿第一生命ビル）
【電話番号】	東京03（3347）9623番
【事務連絡者氏名】	経営企画部長 守屋 雅之
【縦覧に供する場所】	積水化成品工業株式会社東京本部※ （東京都新宿区西新宿2丁目7番1号（新宿第一生命ビル）） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜1丁目8番16号）

（注） ※は金融商品取引法の規定による縦覧に供すべき場所ではないが、株主等の縦覧の便宜のために備えるものである。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第65期 第3四半期連結 累計期間	第65期 第3四半期連結 会計期間	第64期
会計期間	自平成20年 4月1日 至平成20年 12月31日	自平成20年 10月1日 至平成20年 12月31日	自平成19年 4月1日 至平成20年 3月31日
売上高（百万円）	74,603	25,207	98,561
経常利益（百万円）	2,843	1,336	1,463
四半期（当期）純利益（百万円）	1,505	822	712
純資産額（百万円）	—	46,134	45,551
総資産額（百万円）	—	97,225	91,342
1株当たり純資産額（円）	—	471.8	455.82
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（円）	15.43	8.48	7.25
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	—	46.5	48.9
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△1,787	—	4,099
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△3,307	—	△4,827
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	3,711	—	△210
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（百万円）	—	4,177	5,523
従業員数（人）	—	1,567	1,540

- （注） 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
2. 売上高には、消費税等は含んでいない。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社における異動もない。

3【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はない。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成20年12月31日現在

従業員数（人）	1,567（591）
---------	------------

(注) 従業員数は就業人員（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であり、臨時従業員数は（ ）内に当第3四半期連結会計期間の平均人員を外数で記載している。なお、臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いている。

(2) 提出会社の状況

平成20年12月31日現在

従業員数（人）	453（20）
---------	---------

(注) 従業員数は就業人員であり、当社から社外への出向者72名を除き、社外から当社への出向者16名を含んでいる。臨時従業員数は（ ）内に当第3四半期会計期間の平均人員を外数で記載している。なお、臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いている。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりである。

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
樹脂事業 (百万円)	7,266
シート事業 (百万円)	9,511
建材事業 (百万円)	1,121
その他事業 (百万円)	197
合計 (百万円)	18,097

(注) 1. 金額は、販売価格により表示しており、セグメント間の内部振替前の数値によっている。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれていない。

(2) 受注状況

主として見込生産を行っており、受注生産はほとんど行っていない。

(3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりである。

事業の種類別セグメントの名称	当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
樹脂事業 (百万円)	10,003
シート事業 (百万円)	11,750
建材事業 (百万円)	2,220
その他事業 (百万円)	1,233
合計 (百万円)	25,207

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去している。
2. 当第3四半期連結会計期間における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりである。

相手先	当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	
	金額 (百万円)	割合 (%)
株式会社エフピコ	3,101	12.30

3. 上記の金額には、消費税等は含まれていない。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

なお、シート事業において、(株)カネカの100%出資子会社であるサンポリマー(株)の発泡ポリスチレンペーパー事業を譲り受けることに関する譲渡契約書を平成21年2月9日に締結した。同社の事業は、平成21年3月31日に譲り受ける予定である。

3【財政状態及び経営成績の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものである。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日）の日本経済は、アメリカ発の金融危機に端を発した世界的な経済悪化が国内の企業収益や個人消費にも影響を及ぼし、景気後退局面に入った。発泡プラスチック業界においては、原油高に伴うナフサ・ベンゼンなどの石化製品の価格高騰は上半期で一段落したものの、当四半期に入り景気後退に伴う需要減退が顕著となり、収益環境は一層厳しさを増した。

このような経営環境のなか、当社グループの当第3四半期連結会計期間における連結業績は、上半期に引き続き原燃料価格上昇に対応した製品価格改定を進めた。一方、汎用品の売上数量は、四半期全体を通して低調に推移し、自動車・デジタル家電向けを中心とした高機能品の売上は当四半期に入り調整局面となった。この結果、売上高は252億7百万円、営業利益は15億2千6百万円、経常利益は13億3千6百万円、四半期純利益は8億2千2百万円となった。

以下、事業の種類別セグメントの業績は次のとおりである。

①樹脂事業

主力の「エスレンビーズ」（発泡性ポリスチレンビーズ）において、原燃料等の価格高騰に伴う製品価格改定を進めたものの、需要減退の影響により売上数量、売上金額とも前年同期を下回った。高機能発泡製品では、「ピオセラン」（ポリスチレン・ポリオレフィン複合樹脂発泡体）等を素材としたデジタル家電梱包材・自動車部材は、需要が調整局面に入ったものの、売上は前年同期を上回った。高機能材料では、「テクポリマー」（有機微粒子ポリマー）は、光拡散分野での需要が急速に落ち込んだことから売上が大幅に減少した。一方、「テクノゲル」（機能性高分子ゲル）は、日東電工(株)から譲り受けたハイドロゲル事業が寄与し、順調に売上を伸ばした。

この結果、樹脂事業の売上高は100億3百万円、営業利益は5億7千4百万円となった。

②シート事業

主力の「エスレンシート」（発泡ポリスチレンシート）は、需要低調と容器軽量化の影響を受け、売上数量は前年同期を下回ったが、原料等の価格高騰に伴う製品価格改定を進めた結果、売上金額は前年同期を上回った。また「ライトロン」（無架橋発泡ポリエチレンシート）や「セルペット」（発泡PETシート）、「ネオマイクロレン」（無架橋発泡ポリプロピレンシート）は、デジタル家電緩衝梱包材用途の需要が減少し、売上は前年同期を下回った。

この結果、シート事業の売上高は117億5千万円、営業利益は7億9千3百万円となった。

③建材事業

「エスレンフォーム」（押出發泡ポリスチレンボード）や「ESダンマット」（ビーズ法発泡ポリスチレン断熱材）など建材分野において、製品価格改定を進めたものの、住宅着工の不振や低採算品からの撤退などにより売上が大きく減少した。一方、土木分野においては、「EPS土工法」（軽量盛土工法）などが堅調に推移し、売上は前年同期並みとなった。

この結果、建材事業の売上高は22億2千万円、営業利益は1億5百万円となった。

④その他事業

ファーストフード向け「パルプ容器関連商品」の売上は前年同期を下回り、その他の商品も売上が減少した。

この結果、売上高は12億3千3百万円、営業利益は5千5百万円となった。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、972億2千5百万円となった。前連結会計年度末と比較すると、資産の部では、流動資産が受取手形及び売掛金の増加等により54億5千1百万円増加し、固定資産は投資その他の資産の増加等により4億3千万円増加した。一方、負債の部では、支払手形及び買掛金の増加などにより流動負債が14億8千9百万円増加し、長期借入金の増加などにより固定負債が38億1千万円増加した。純資産は、461億3千4百万円となり、5億8千2百万円増加した。自己資本比率は46.5%となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりである。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

売上債権が増加したことなどにより、3億3千5百万円の支出となった。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産の取得による支出などにより、8億7千4百万円の支出となった。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

長期借入れによる収入などにより、16億3千7百万円の収入となった。

この結果、現金及び現金同等物の当第3四半期連結会計期間末残高は41億7千7百万円（第2四半期連結会計期間末比4億1百万円増）となった。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はない。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間における当社グループ全体の研究開発活動の金額は、5億5千4百万円である。

なお、当第3四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はない。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した生産能力に重要な影響を与える設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はない。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	249,502,000
計	249,502,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成20年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成21年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	99,976,218	99,976,218	東京証券取引所 大阪証券取引所 各市場第一部	単元株式数 1,000株
計	99,976,218	99,976,218	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3)【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成20年10月1日～ 平成20年12月31日	—	99,976,218	—	16,533	—	14,223

(5)【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握していない。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成20年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしている。

① 【発行済株式】

平成20年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 2,122,000	—	単元株式数 1,000株
完全議決権株式（その他）	普通株式 97,585,000	97,585	同上
単元未満株式	普通株式 269,218	—	1単元（1,000株）未満の株式
発行済株式総数	99,976,218	—	—
総株主の議決権	—	97,585	—

（注） 「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が10,000株含まれている。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数10個が含まれている。

② 【自己株式等】

平成20年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
積水化成品工業株式会社	大阪市北区西天満2丁目4番4号	1,985,000	—	1,985,000	1.99
優水化成工業株式会社	石川県金沢市尾山町2番17号	—	103,000	103,000	0.10
天理運輸倉庫株式会社	奈良県天理市森本町670番地	3,000	31,000	34,000	0.03
計	—	1,988,000	134,000	2,122,000	2.12

（注） 他人名義で所有している株式は、代理店、取引先等の持株会「積水化成品取引先持株会」（大阪市北区西天満2丁目4番4号）名義の株式のうち、相互保有株式の持分残高を記載している。

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高（円）	320	322	330	315	303	302	269	315	312
最低（円）	246	289	300	272	277	251	166	243	294

（注） 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものである。

3 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はない。

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成している。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,271	5,689
受取手形及び売掛金	※3 30,531	24,199
商品	947	875
製品	4,786	4,482
半製品	814	860
原材料	1,820	1,794
仕掛品	163	248
その他	2,368	2,108
貸倒引当金	△83	△91
流動資産合計	45,621	40,169
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	※1 12,162	※1 11,959
機械及び装置（純額）	※1 9,362	※1 9,761
土地	14,821	14,382
その他（純額）	※1 3,006	※1 3,494
有形固定資産合計	39,351	39,597
無形固定資産		
のれん	192	203
その他	589	421
無形固定資産合計	782	624
投資その他の資産		
その他	11,690	11,192
貸倒引当金	△219	△241
投資その他の資産合計	11,470	10,951
固定資産合計	51,604	51,173
資産合計	97,225	91,342

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※3 17,097	16,021
短期借入金	7,940	7,396
未払法人税等	877	252
賞与引当金	441	898
役員賞与引当金	81	66
その他	9,122	9,437
流動負債合計	35,561	34,072
固定負債		
長期借入金	9,300	4,800
退職給付引当金	2,400	3,021
役員退職慰労引当金	65	54
その他	3,763	3,842
固定負債合計	15,529	11,719
負債合計	51,091	45,791
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,533	16,533
資本剰余金	18,541	18,541
利益剰余金	8,710	8,037
自己株式	△1,270	△717
株主資本合計	42,514	42,394
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,064	1,389
土地再評価差額金	914	914
為替換算調整勘定	△242	△45
評価・換算差額等合計	2,736	2,258
少数株主持分	883	899
純資産合計	46,134	45,551
負債純資産合計	97,225	91,342

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間
(自 平成20年4月1日
至 平成20年12月31日)

売上高	74,603
売上原価	58,322
売上総利益	16,281
販売費及び一般管理費	※ 13,224
営業利益	3,056
営業外収益	
受取利息	16
受取配当金	143
受取補償金	140
その他	118
営業外収益合計	418
営業外費用	
支払利息	162
為替差損	204
持分法による投資損失	5
その他	259
営業外費用合計	632
経常利益	2,843
特別利益	
投資有価証券売却益	548
その他	34
特別利益合計	583
特別損失	
たな卸資産評価損	440
その他	38
特別損失合計	478
税金等調整前四半期純利益	2,948
法人税、住民税及び事業税	1,157
法人税等調整額	238
法人税等合計	1,396
少数株主利益	46
四半期純利益	1,505

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間
(自 平成20年10月1日
至 平成20年12月31日)

売上高	25,207
売上原価	19,151
売上総利益	6,056
販売費及び一般管理費	※ 4,529
営業利益	1,526
営業外収益	
受取利息	5
受取配当金	62
持分法による投資利益	1
その他	28
営業外収益合計	97
営業外費用	
支払利息	56
為替差損	148
その他	84
営業外費用合計	288
経常利益	1,336
特別利益	
投資有価証券売却益	0
特別利益合計	0
特別損失	
ゴルフ会員権評価損	2
投資有価証券評価損	1
その他	0
特別損失合計	3
税金等調整前四半期純利益	1,332
法人税、住民税及び事業税	387
法人税等調整額	111
法人税等合計	499
少数株主利益	10
四半期純利益	822

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間
(自 平成20年4月1日
至 平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	2,948
減価償却費	2,962
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△25
受取利息及び受取配当金	△159
支払利息	162
持分法による投資損益 (△は益)	5
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△620
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	15
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△462
投資有価証券売却損益 (△は益)	△548
固定資産除売却損益 (△は益)	40
たな卸資産評価損	440
売上債権の増減額 (△は増加)	△6,194
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△670
仕入債務の増減額 (△は減少)	832
その他	△37
小計	△1,313
利息及び配当金の受取額	156
利息の支払額	△146
保険金の受取額	6
法人税等の支払額	△490
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,787
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△6
定期預金の払戻による収入	65
有形固定資産の取得による支出	△3,194
有形固定資産の売却による収入	6
投資有価証券の取得による支出	△461
投資有価証券の売却による収入	789
貸付けによる支出	△347
貸付金の回収による収入	24
連結子会社株式の取得による支出	△4
その他	△178
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,307

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間
(自 平成20年4月1日
至 平成20年12月31日)

財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額 (△は減少)	2,557
長期借入れによる収入	4,500
長期借入金の返済による支出	△2,000
自己株式の取得による支出	△553
自己株式の売却による収入	0
配当金の支払額	△759
少数株主への配当金の支払額	△9
その他	△23
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,711
現金及び現金同等物に係る換算差額	△87
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,470
現金及び現金同等物の期首残高	5,523
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	124
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 4,177

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	<p>当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)</p>
<p>1. 連結の範囲に関する事項の変更</p>	<p>(1) 連結の範囲に関する事項 第1四半期連結会計期間より、(株)セキホー広島は重要性が増したため、連結の範囲に含めている。 (2) 変更後の連結子会社の数 30社</p>
<p>2. 会計処理基準に関する事項の変更</p>	<p>(1) 「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用 ① たな卸資産の評価基準及び評価方法 通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として移動平均法による原価法によっていたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定している。 これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益はそれぞれ78百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は518百万円減少している。なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載している。 ② たな卸資産の処分に係る損失の計上区分 従来、たな卸資産の処分に係る損失であるたな卸資産廃棄及び処分損については、「営業外費用」に計上していたが、第1四半期連結会計期間から売上原価として処理する方法に変更した。この変更は、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、収益性の低下に基づく簿価切下げによって発生する評価損とたな卸資産の処分に係る損失を期間損益計算において同等の損益区分で処理する方法が適当であると判断したことによるものである。 これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益は48百万円減少しているが、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はない。なお、セグメントに与える影響は、当該箇所に記載している。</p>

	<p>当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)</p>
	<p>(2) 「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用 第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用し、連結決算上必要な修正を行っている。 これによる影響額は軽微である。</p> <p>(3) 「リース取引に関する会計基準」の適用 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっていたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号 平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 企業制度委員会)、平成19年3月30日改正))が、平成20年4月1日以後開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっている。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用している。 これによる損益に与える影響はない。</p> <p>なお、リース取引開始日がリース会計適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用している。</p>

【簡便な会計処理】

該当事項なし。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項なし。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
※1	有形固定資産の減価償却累計額は、75,128百万円である。	有形固定資産の減価償却累計額は、72,756百万円である。
2	偶発債務 保証債務 銀行借入債務に対する保証 富士物産㈱ 0百万円	偶発債務 受取手形割引高 5百万円 受取手形裏書譲渡高 4百万円 保証債務 銀行借入債務に対する保証 富士物産㈱ 2百万円
※3	当連結会計期間末日の満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理している。 なお、当連結会計期間末日は金融機関の休日であったため、次の満期手形が当連結会計期間末日の残高に含まれている。 受取手形 663百万円 支払手形 65百万円	—————

(四半期連結損益計算書関係)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	
※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりである。	
保管・運送費	3,740百万円
貸倒引当金繰入額	23百万円
給料手当・賞与	2,874百万円
賞与引当金繰入額	239百万円
役員賞与引当金繰入額	81百万円
役員退職慰労引当金繰入額	8百万円
減価償却費	739百万円
研究開発費	1,601百万円

当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	
※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりである。	
保管・運送費	1,276百万円
貸倒引当金繰入額	0百万円
給料手当・賞与	817百万円
賞与引当金繰入額	239百万円
役員賞与引当金繰入額	27百万円
役員退職慰労引当金繰入額	3百万円
減価償却費	264百万円
研究開発費	554百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間
(自 平成20年4月1日
至 平成20年12月31日)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目と金額との関係 (平成20年12月31日現在)	
現金及び預金勘定	4,271百万円
預金期間が3ヶ月を超える定期預金	△93百万円
現金及び現金同等物	4,177百万円

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成20年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 99,976千株

2. 自己株式の種類及び株式数

普通株式 4,064千株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年6月20日 定時株主総会	普通株式	391	4.00	平成20年3月31日	平成20年6月23日	利益剰余金
平成20年10月31日 取締役会	普通株式	391	4.00	平成20年9月30日	平成20年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）

	樹脂事業 (百万円)	シート事業 (百万円)	建材事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	10,003	11,750	2,220	1,233	25,207	—	25,207
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	344	41	244	55	685	(685)	—
計	10,348	11,792	2,465	1,288	25,893	(685)	25,207
営業利益又は営業損失 (△)	574	793	105	55	1,529	△2	1,526

当第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	樹脂事業 (百万円)	シート事業 (百万円)	建材事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	32,135	32,847	6,287	3,333	74,603	—	74,603
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	967	129	670	200	1,967	(1,967)	—
計	33,102	32,977	6,957	3,533	76,571	(1,967)	74,603
営業利益又は営業損失 (△)	1,713	1,272	6	66	3,059	△2	3,056

(注) 1. 事業区分の方法

製造方法に市場性を加味した事業に区分している。

2. 各区分に属する主要な製品の名称

- ・樹脂事業—— エスレンビーズ、ピオセララン、テクポリマー、テクノゲル、自動車関連資材、産業包装材料、その他樹脂関連商品
- ・シート事業—— エスレンシート、ラミネート、エスレンウッド、ライトロン、その他シート関連商品
- ・建材事業—— エスレンフォーム、エスレンネダマット、ティエスサンド、エスレンポイド、エスレンブロック（EPS土木工法）、TYKフォーム、その他建材関連商品
- ・その他事業—— 物流資材関連商品、パルプ容器関連商品、その他商品

3. 会計処理の方法の変更

(棚卸資産の評価に関する会計基準)

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり、通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として移動平均法による原価法によっていたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、主として移動平均法による原価法（貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定している。これにより、「樹脂事業」で40百万円、「シート事業」で33百万円、「建材事業」で0百万円、「その他事業」で4百万円、当第3四半期連結累計期間の営業利益がそれぞれ減少している。

(たな卸資産の処分に関する損失の計上区分)

「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載のとおり、従来、たな卸資産の処分に係る損失であるたな卸資産廃棄及び処分損については、「営業外費用」に計上していたが、第1四半期連結会計期間から売上原価として処理する方法に変更した。この変更は、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、収益性の低下に基づく簿価切下げによって発生する評価損とたな卸資産の処分に係る損失を期間損益計算において同等の損益区分で処理する方法が適当であると判断したことによるものである。これにより、「樹脂事業」で19百万円、「シート事業」で19百万円、「建材事業」で2百万円、「その他事業」で7百万円、当第3四半期連結累計期間の営業利益がそれぞれ減少している。

【所在地別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）及び当第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合がいずれも90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略している。

【海外売上高】

当第3四半期連結会計期間（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）

	アジア	その他	計
I. 海外売上高（百万円）	1,864	376	2,241
II. 連結売上高（百万円）			25,207
III. 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	7.4	1.5	8.9

当第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	アジア	その他	計
I. 海外売上高（百万円）	6,389	1,627	8,017
II. 連結売上高（百万円）			74,603
III. 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	8.6	2.2	10.7

(注) 1. 国又は地域の区分の方法は、おおむね地理的近接度によっている。

2. 各区分に属する主な国又は地域は以下のとおり。

[アジア]・・・中国、マレーシア、タイ

[その他]・・・オランダ、オーストラリア、アメリカ

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高である。

(有価証券関係)

該当事項なし。

(デリバティブ取引関係)

該当事項なし。

(ストック・オプション等関係)

該当事項なし。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)		前連結会計年度末 (平成20年3月31日)	
1株当たり純資産額	471.80円	1株当たり純資産額	455.82円

2. 1株当たり四半期純利益金額

当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	
1株当たり四半期純利益金額	15.43円	1株当たり四半期純利益金額	8.48円
なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在しないため記載していない。		なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在しないため記載していない。	

(注) 1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)
四半期純利益(百万円)	1,505	822
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	1,505	822
普通株式の期中平均株式数(千株)	97,587	97,032

(重要な後発事象)

該当事項なし。

(リース取引関係)

該当事項なし。

2【その他】

平成20年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議した。

(イ) 中間配当による配当金の総額……………391百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………4円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成20年12月5日

(注) 平成20年9月30日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行った。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年2月12日

積水化成品工業株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 嘉章 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 豊原 弘行 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている積水化成品工業株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、積水化成品工業株式会社及び連結子会社の平成20年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

追記情報

四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されているとおり、会社は第1四半期連結会計期間より、棚卸資産の評価に関する会計基準を適用している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。